

## 行けばわかるだろう

七条京阪から電車に乗った。

途中、伏見桃山の駅で降りて、本屋に寄った。

また、駅にもどり、プラットフォームで電車を待った。

しばらくして、電車が来た。

「彼女、乗ってへんかなあ。」と、その偶然をかけたが、乗っていなかった。

家に帰ると、露里君が来ていた。

兄貴のアルバイトの対象の一人だ。

「一体、兄貴は何人の家庭教師をしているんだろうか。」

テープで英語会話の練習を三十分ほどした。

コーダーが熱を持ち出したので、冷やす時間がある。

自転車で、川の方へ散歩しに行った。

宇治川の土手沿いに、はるか遠く、八幡の山を見て、

家に戻り、昼食に食べるはずだった

冷やしうどんを軽く食べた後、

母に「寝るから」と言った。

すると、母は、「ほな、晩のおかずは、天ぶらやし、作っついて、おいとくから、夜、勝手に食べなさいよ。必ず、食べるのやで。」と言った。

「ふん、わかった。」と僕は答えた。

